

1. 略歴

- 1992年3月 東京大学文学部心理学専修課程卒業
- 1992年4月 東京大学文学部研究生（～1993年3月）
- 1993年4月 東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻修士課程入学
- 1995年3月 同修了（修士（文学）取得）
- 1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野博士課程進学
- 2000年3月 同単位取得退学
- 2001年4月 聖心女子大学文学部専任講師
- 2003年4月 聖心女子大学大学院文学研究科専任講師兼任
- 2007年4月 聖心女子大学文学部准教授、聖心女子大学大学院文学研究科准教授兼任
- 2008年9月 博士（文学）取得（東京大学大学院人文社会系研究科）
- 2013年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

死生学、宗教学、スピリチュアリティ研究

b 研究課題

日本人の死生観、宗教心理学の学説・理論の研究、現代日本人の個人主義的スピリチュアリティ、未来に関する倫理

c 概要と自己評価

死生学におけるこれまでの学際的研究の蓄積を踏まえて、医療関係者や心理・福祉・介護などの視点と、人文社会系の学問の視点の双方を取り入れた死生学の構築を目指している。現在の死生学は、医療・福祉・介護の視点にやや偏りがちで、歴史学や社会学や宗教学の視点を踏まえた死生観の研究を充実させる必要があると考える。しかし、この人文社会系の死生学も個別研究は充実しているものの、体系的に関連づけられているとは言えない。基礎的とも言える現代日本人の死生観の包括的な量的研究すら、決定的なものがない状況である。このような状況を踏まえて、現代日本人の死生観の量的調査に着手し、成果を発表し始めている。とりわけ、日本社会において死と生に関わる重要テーマである自殺と死生観の関連について研究成果を発表することができた。

また、震災後の宗教学・死生学は、支援活動をしている宗教者同士の関係性構築のために一定の役割を果たしたと言えるが、被災地や被災者そのもののリアリティに迫るような調査研究については、調査被害を招くなどの理由で、十分に進んでいるとは言えない。2013年度から2015年度には、東北大学実践宗教学講座を中心とする科学研究費助成プロジェクト「東北被災地域における心霊体験の語りと宗教者による対応に関する宗教学的研究」に加わり、被災地での調査研究をおこなった。今後はその成果を広く問う予定である。また、震災と宗教の関係を広く、また理論的観点からも深く考察した論考を発表することができた。

d 主要業績

(1) 論文

- 堀江宗正、「日本人の死生観をどうとらえるか——量的調査を踏まえて」、東京大学学術機関リポジトリ（2014年4月）、<<http://hdl.handle.net/2261/55822>>、1-12頁
- 堀江宗正、「現代日本の魔女たち」、『季刊民族学』149号（2014年7月）、15-23頁
- 堀江宗正、“The Contemporary View of Reincarnation in Japan: Narratives of the Reincarnating Self,” Christopher Harding, Iwata Fumiaki, and Yoshinaga Shin’ichi (eds.), *Religion and Psychotherapy in Modern Japan* (Abingdon: Routledge, September 2014), pp. 204-233.
- 堀江宗正、「霊といのち——現代日本仏教における霊魂観と生命主義」、『死生学・応用倫理研究』第20号（2015年3月）、195-235頁
- 島菌進・堀江宗正、「宗教は自殺予防に資するのか——日本人と自殺」、『精神科治療学』第30巻3号（2015年3月）、387-392頁
- 堀江宗正、「サブカルチャーの魔術師たち——宗教学的知識の消費と共有」、江川純一・久保田浩編『「呪術」の呪縛上巻』（リトン、2015年3月）、417-466頁

堀江宗正、「震災と宗教——復興世俗主義の台頭」、似田貝香門・吉原直樹編『震災と市民2——支援とケア』（東京大学出版会、2015年8月）、215-233頁

堀江宗正、「戦後70年の宗教をめぐる動き」、『宗教と現代がわかる本2016』（平凡社、2016年3月）、122-7頁

山本功・堀江宗正、「自殺許容に関する調査報告——一般的信頼、宗教観・死生観との関係」、『死生学・応用倫理研究』21号（2015年3月）、34-82頁

(2) 書評

堀江宗正、松本皓一『日本の近代と宗教的人格』『宗教的人格と教育者』（いずれも秋山書店、2014）、『週刊読書人』3055号（2014年9月5日）、6頁

(3) 学会発表

堀江宗正、「日本人の死生観をどうとらえるか——量的調査を踏まえて」、臨床死生学・倫理学研究会発表（東京大学、2014年4月16日）、東京大学学術機関リポジトリ<<http://hdl.handle.net/2261/55822>>

堀江宗正、「霊といのち——日本人における死後観の相克を現代仏教にみる」、上廣死生学・応用倫理講座『医療・介護従事者のための死生学——2014年度夏季セミナー』（東京大学、2014年8月3日）

堀江宗正、「被災地における霊的体験と継続する絆——身内の霊と未知の霊」、日本宗教学会発表（同志社大学、2014年9月13日）、『宗教研究』第88巻別冊、156-7頁

堀江宗正、「アニマ、アニムスから、アニメへ」、早稲田大学エクステンションセンター『ユング心理学と現代』（2014年11月22日、29日、12月6日）、<https://www.academia.edu/9755469/アニマ_アニムスから_アニメへ>

堀江宗正、「死に関する表現——日本語と外国語の語彙の比較から」、上廣死生学・応用倫理講座『医療・介護従事者のための死生学——2015年度夏季セミナー』（東京大学、2015年8月1日）

堀江宗正、「Wicca Today in Japan: Aspects of Culture, Gender, and the Media」、International Association for the History of Religion (University of Erfurt, 2015年8月25日)、<<http://www.iahr2015.org/iahr/2020.html>>

堀江宗正、「Continuing bonds in the disaster area: Locating the destinations of spirits」、International Association for the History of Religion (University of Erfurt, 2015年8月25日)、<<http://www.iahr2015.org/iahr/3061.html>>

堀江宗正、「New Trends in the Study of Japanese Religions: Political aspects of religion, religious aspects of politics」、International Association for the History of Religion (University of Erfurt, 2015年8月27日)、<<http://www.iahr2015.org/iahr/3172.html>>

堀江宗正、「信仰者の語る被災地の霊的体験——東京近辺の諸教団の事例から」、日本宗教学会発表（創価大学、2015年9月5日）、『宗教研究』第89巻別冊、333-4頁

堀江宗正、「経済優先から（いのち）の連帯へ——原発事故を契機として」、翰林大学生死学研究所国際シンポジウム、2016年3月12日

(4) 啓蒙

堀江宗正、「アンケート 東大教師が新入生にすすめる本」、『UP』498（東京大学出版会、2014年4月）、24頁。以下に再録。東京大学出版会『UP』編集部『東大教師が新入生にすすめる本 2009-2015』（東京大学出版会、2015年3月）、223-4頁

堀江宗正、「死生学」から見えてくること、『ちいさい・おおきい・よわい・つよい』、105号（2015年4月）、78-85頁。編集部のまとめによる。

(5) 翻訳

堀江宗正・鷹田佳典訳、トニー・ウォルター「死にゆくこと、東と西と」『死生学・応用倫理研究』21号（2016年3月）、8-33頁

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

2015年9月から2016年7月まで高野山大学大学院にて非常勤講師

(2) 学会

日本宗教学会、「宗教と社会」学会、日本社会学会、日本生命倫理学会、日仏哲学会